

関越自動車道の「三芳パーキングエリア」の ETC 出口を出て、しばらく走ると「ケヤキ並木通り」（県道 56 号線）と交差します。「上富」という交差点です。「かみとみ」ではなく「かみとめ」と読むのが正しいです。このあたりの「上富」「中富」「下富」の三地区を合わせて、かつては「三富新田（さんとめしんでん）」と呼ばれていました。「三富新田」は江戸時代に開拓された、いわゆる「新田集落」の一つで、街道を手前に屋敷、耕作地、雑木林の順に、非常に細長い地割になっていました。現在も航空写真や地図を見ると、その面影がわかります。

武蔵野台地の中央に位置するこのあたりの土地は、もともと耕作に適さず、堆肥の原料となる大量広葉樹の落ち葉が必要だったのです。このあたりでは、その雑木林のことを「ヤマ」と呼んでいました。ヤマの樹木は主にクヌギ、コナラなどの雑木（建築材には適さない落葉広葉樹）です。葉は堆肥として、材は薪として、およそ15年サイクルで更新されていたそうです。

実は私の「自然観察」の原点はこの「三富のヤマ」にあります。高校生の時代から、友人とたびたびこの雑木林を訪れ、林床の植物やキノコ類の採取をしていました。植物学者の故橋本秀一先生と歩いたこともあります。

先日練馬インター付近で事故があり、大渋滞していて三好 ETC 出口から出た時に、久しぶりに立ち寄ってみました。林床の手入れはやや悪かったですが、30年前とほとんど変わらない「ヤマ」の風景にほっとして、なつかしく思いました。

(2024年10月上旬／埼玉県入間郡三芳町上富)

